

ちょっと
リニューアル

オープン・アカウント

Open Account

FNA (Fナ・ADB福岡NGOフォーラム)

ニュースレター2005年11月号

NO.19

無駄な開発を
ウォッチング!!



今が旬!

特集 | 日本の開発 ~ 下北沢と辺野古 ~

- 下北沢再開発問題の現状 P2
- 辺野古訪問記 P4
- 新連載 タイの開発・クワンダム汚水処理場 P5
- 気になるADB案件 P7
(スリランカ・南部ハイウェイ建設事業)
- 家庭でも出来るアジアの味 P8
(グリーンカレー)
- ・映画評、他 P9
- ・FNAイベント情報、他 P10

今回の特集では、マスコミではほとんど取り上げられない日本で起きている開発の問題を取り上げます。現在、公共事業によって日本の豊かな自然が破壊されているだけでなく、街も大企業の資本の力によって、利益追求の場としてその街の文化や風情を崩壊させようとしています。足元から開発の問題を考え直してみたいと思います。

特集:日本の開発

ケース1

下北沢(東京都)

下北沢再開発事業 の現状

一 計画概要一

米軍占領下の昭和21年に計画された「補助54号線」という道路建設計画が、小田急線下北沢駅が地下化されることに伴い、2003年1月になって道路建設の事業認可に向けて突如浮上した。

54号線は環状8号線から山手通りまで真っ直ぐにつながり、都道であり、世田谷区によって施工される予定。

この道路が建設されれば、下北沢の賑わいだけでなく、世田谷の閑静な住宅街をも破壊するものである。

そもそも昭和21年に計画された道路建設が2003年になって突如浮上したのは、ラッシュアワー時に1時間で約50分以上も詰まったままであるという「開かずの踏み切り」の問題を解消する為に、2001年になってようやく小田急線の地下化が決定されたことがきっかけである。

小田急線の地下化が、事業として成立するには、旧建設省と旧運輸省の間で結ばれた協定によって、鉄道と幹線道路が2ヶ所以上で交差し、その距離が350メートル以上なければならないという条件があり、その結果「補助54号線」計画が事業化することになった。

また、道路建設に伴い、下北沢地区で「誘導型再開発」を行うという計画も出てきた。現在の町並みを生かすために規制されていた建物の高さ制限(22メートル、16メートル)をこの計画に限り2倍、3倍の緩和を行おうとしている。

計画の概要は、バスターミナルとタクシー乗り場のためのロータリーが計画されており、現在は車がほとんど入ってこない下北沢の中心に車が誘導されようとしている。

また、新規に計画される駅前広場の周囲、半径100mの範囲と新規計画道路(区画街路10号線・駅前広場)・補助54号線の両脇、茶沢通りの駅側沿道にかけて17階(高さ60m程度)もの高層ビル群を誘導する計画となっている。

一 下北沢の街一

そもそも下北沢の街はどんなところなのか。小田急線と井の頭線が交差する立地条件から街は4分割され、それぞれの区分では異なる様々な文化が育まれることとなった。

ファッション関係の店舗が多く立ち並ぶ北側商店街。本多劇場や多くのライブハウスが存在する文化的な東側の商店街。飲食店の密集する南側商店街。このような状況が多くの人々を下北沢に足を向け、音楽や演劇などの多くの文化が育まれてきた街なのである。

一 反対への動き一

自分が育った街や通った場所が様変わりし、大企業の利益追求の場と変貌する状況。下北沢で生まれ育った人々を始め、この街で青春時代を過ごした人々などからこの巨大開発事業に反対の声が上がっている。

「Save the 下北沢」は年齢や性別の壁を越えた下北沢をこよなく愛する有志によって結成された団体。この団体が掲げるのは以下の3点。

1. 補助54号線計画(環状7号線~補助26号線間)の中止
2. 上記に伴う区画街路10号線の見直し
3. 既存市街の大規模な破壊を伴わない修復型のまちづくりへの転換

講演会やメルマガの発行、ネット著名などの活動を行っている。

「Save the 下北沢」の動きに対して多くのミュージシャンや文化人からも賛同の声が上がっている。

下北沢フォーラム(Webサイト)では、下北沢の有り方について

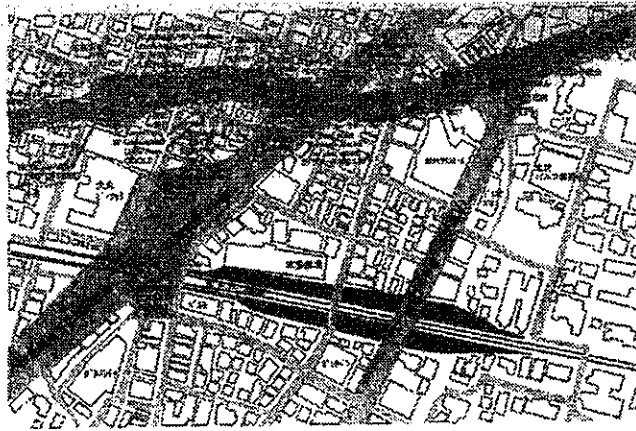
開かれた意見交換の場として存在している。

このような動きはあるが、まだまだ小さいようで、行政を動かすまでには至っていないようである。

－ おわりに －

日本人の中で強大な商業施設や文化施設に惹かれる傾向は根強いような気がする。自分のことになってしまいますが、若い頃映画館に行く為によく通った有楽町の駅を久々に降り立って驚いたものである。銀座と隣り合っているが、どこか庶民感覚の残る街だった駅前の雰囲気は失われようとしていた。

良いか悪いかは別として、マスコミでも日本人としてのあり方を叫ばれている昨今。東京都知事はいったい何を考えて政治を取り仕切っているのであろうかと改めて思う。弱者の前ではえらく強気の人間も資本の力に



はめっぽう弱いのか。

最後に下北沢開発問題の関連サイトを紹介します。

- 「Save the 下北沢」のサイト(* ネット署名受付中!)
<http://www.stsk.net/>
- 「下北沢フォーラム」のサイト
<http://shimokitazawa-forum.net/>
- フリージャーナリスト高橋ユリカさんの「サステイナブル☆下北沢」という下北沢問題のレポート
http://www.viva.ne.jp/library/scramble/archives/2005/02/post_21.html

特集:日本の開発
ケース2
辺野古(沖縄県名護市)

辺野古で今、 何が起きている？

－経緯－

騒音や米兵の犯罪などによって、**普天間基地**(宜野湾市)の移設を求める声が高まる中、SACO(日米特別委員会)は、沖縄県名護市**辺野古**を代替基地となる**海上ヘリポート建設候補地**とすることを発表した。(1996年12月)

SACOの発表以来、80代~90代を中心とした地元住民は8年間に渡って辺野古漁港脇のテントで**座り込み**を続けている。

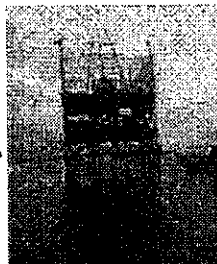
沖縄国際大学ヘリ墜落事故(2004年8月13日)をきっかけに、

同年9月9日に**那覇防衛施設局**が海上ヘリポート基地を建設へ向け、**ボーリング地質調査**のための足場(やぐら)建設を開始した。

すでに5基のやぐらが建設されているが、これ以上の作業を止める為に、陸上での座り込みの他、やぐらの上での座り込みや、船・カヌーを使った作業の阻止、直接海中に飛び込んでの阻止行動(飛び込み隊)も続いている。

2005年4月26日施設局は規定に違反して**夜間作業**を始めた為に、24時間体制でやぐらでの座り込みを始めた。

阻止行動には地元住民だけでなく、**全国から若者**などが参加している。



▲ボーリング調査の為のやぐら

－問題点－

基地が**軍事目的**に利用されるとだけでなく、環境面にも多くの問題がある。

辺野古の海には**サンゴ礁**、藻場が広がり、**ジュゴン**やクマノミなどの生息する**希少動物**にとって、藻場の破壊は絶滅の危機となります。

また、**騒音**や**排水**などによる**汚染**、**軍人による犯罪**など基地が関係する被害も懸念されます。

－概要－

事業主体:防衛庁那覇防衛施設局
事業費:1兆円(全て日本の税金)
場所:辺野古沖800m、幅730m、長さ2000m、207ha(東京ドーム約44個分)

〈辺野古関連サイト〉

- ・座り込みブログ
<http://blog.livedoor.jp/kitihantai555/>
- ・「ジュゴンの家日誌」
<http://dugong2003.fc2web.com/>

他多数

*次ページは辺野古訪問記

踊る2人の革命戦士

辺野古訪問記

【2005. 5. 3~2005. 5. 5】

藤裕美 中村美和子（うんこちゃん劇場）

【5月3日】

PM辺野古着。

テントには20人程の方が座り込みをしている。

緊迫した雰囲気を想像していたが、実際は広くてきれいな海を前にゆったりとおしゃべりをしている、といった印象。

しばらくすると施設局に対する抗議の打合せが始まり、しだいに議論は熱く、ときに厳しい言葉も出てきてテントの中は緊張感が走りまわった。その様子を見ていると、座り込みを続けている方たちの熱く真剣な胸の内が伝わった。

私たちは、夜間の海上での座り込みをする為に、夕方6時にボートに乗り、海のやぐらに向かった。陸から1kmほどの距離にあるやぐらは、とても遠く感じられて少し不安になる。私たちが行った1号機は、キャンプシュワブに最も近い位置にあり、1号機のすぐ近くには、警備船のゴムボートが24時間監視を続けている。

ビデオや写真で座り込みをしている私たちを記録していた。

1号機には、地元の男性と大阪から来て座り込みを続けている男性と私たちの計4人で座り込みをした。暗くなる前に寝る準備をして寝袋に入ったが、風が吹くたびにやぐらが揺れるのが恐くて、また近くにいる警備船が気になって中々寝付けません。

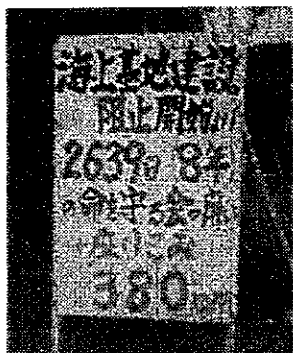
【5月4日】

朝7時に、朝食を持ってきてくれるボートがきました。そのボートに乗って、私たちの交代の方が来てくれたので、私たちは陸に戻りました。私たちは、初めての座り込みだったので、約12時間で陸に戻ったが、長く続けている方は丸2日間、海上にいることも珍しくはないとのこと。陸に戻っても、しばらくは海の上にいるような感覚が体に残っていて、普通の状態に戻るまで少し時間がかかりました。

朝食を頂き、シャワーをお借りした後、ボートで各やぐらへ応援に行きました。やぐらから少し離れたところにある平島という小さなビーチを廻りました。プライベートビーチのように小さな島で20~30人の人が“海のバカンス”を楽しんでいました。すぐ近くの海上で座り込みをしている人々との温度差を感じて、何とも言えない気持ちになったが、こういう場所を守る為にも、座り込みをしなければいけないのだと感じました。

この日の夜は2号機での泊まり込みです。2号機は工事が一番遅れているやぐらで、陸にある施設局の事務所が見えやすい位置にあります。工事が進んでいないということは、やぐらの修理等もされておらず、足場も安定していません。この日は雨風がひどく、やぐらの上にビニールシートを張り屋根代わりにしたのですが、これが風にあおられてとても揺れるので、今にも倒れそうでした。そんな中、一人一時間交代で見張りをしました。巾30cmほどの板の上に座って、陸にある施設局の事務所のブラインドが上がっていないか、浜に人が出ていないかなど、双眼鏡で監視します。この日は特に動きが無く、無事に過ごしました。

やぐらには60代、70代の方が、不安定な足場を登り、泊まり込みをされています。私は、今にも倒れそうなやぐらの中で、「この状態をずっと続けるわけにはいかない…。明日帰ってから私達にできる事はどれだけあるだろう…」と、考え続けながら朝を迎えました。夜が明けて、交代の方たちと入れ替わりにボートに乗り、陸へ向かいました。船着場では大きな声で「おかえりなさい」と言って迎えてくれます。このあたたかい声にホッとしました。このつらい状況の中でも、誰一人愚痴を言わない事、いつも笑顔が絶えない事、初めての私達に親切にしていた事。この2日間で、私は人の“強さ”と“やさしさ”を学びました。そして、まずは「伝える」こと。それが私達のすべきことだと強く感じました。



▲ 左が藤裕美さん。

新連載!

ADB

私たちが

タイの汚水処理プロジェクトをめぐる

まえがき

FNAの活動がはじまって来年で10年を迎えようとしています。ADBとは何か、NGOとは何か、大所高所から語るのではなく、自らの体験からADBと私たちについてあらためて考えてみることにしました。また、このような企画が2007年京都で開催されるADB総会を念頭におきながら、NGOになにができるのか、10年前の福岡総会の経験から何らかのメッセージを発信できればと考えております。これらの文章がそのまま小冊子になるわけではありません。ここに掲載する文章は、あくまでも、小冊子を作成するための材料です。みなさんの忌憚のないご意見・ご感想をお待ちしています。

第1話
FNAと
サムット・プラカンプロジェクト
～チェンマイからホノルルへ～

(1) ADB第30回福岡総会 ～FNA設立の経緯～

アジア開発銀行 (Asian Development Bank以下、ADB) は、年に1度総会を開催している。1997年のADB第30回総会の開催地に選ばれたのは福岡市であった。ADB総会とは何なのか、ということで後のFNA設立の中心メンバーとなるDさん、Iさんは1996年のフィリピン総会に参加している(*1)。この福岡総会の開催を契機として、地元の人々を中心にアジア開発銀行総会福岡NGOフォーラムが設立された。総会以降、会の名称を現在の「アジア開発銀行福岡NGOフォーラム」(Fukuoka NGO Forum on the Asian Development Bank、以下FNA)に改めNGO活動を継続し、FNAのメンバーは、ADB総会に参加するようになった。

* 1. 結局、この時通行証を所持していなかった2人は総会には参加できなかった。しかし、この問題は国会答弁まで発展することになった。

(2) チェンマイ総会 ～問題の顕在化～

2000年のADB第33回総会はタイのチェンマイで開催された。この総会では、同国の市民社会からADBの融資活動に対して猛烈な抗議・反発が起こった(『OPENACCOUNT』Vol. 4/5)。総会ホスト国であるタイのNGOやPO(民衆組織)は、「民衆フォーラム」を開催し、タイ市民社会に対してADBの問題点を明らかにするとともに、ADBに対しては自らの要求を突きつけた。その中で特に注目されたのが、サムット・プラカン汚水処理プロジェクトである。チェンマイから約1,000キロ離れたバンコク近郊のサムット・プラカン県から200人もの住民が抗議活動のためにADB総会にやってきたのである。住民の要求はこのプロジェクトへの融資の停止であった。「民衆フォーラム」は、千野総裁との直接会談を要求したが、千野総裁は多忙を理由に出席を断った。

(3) ADB総裁との会談

千野総裁はなぜチェンマイ総会で住民に会うのを拒否したのか。千野総裁と福岡で会合をもつことができたFNAのメンバーは聞いた。――

吾郷健二：対話と参加についてだが、チェンマイ総会では、日本のNGOが千野総裁に対して現地のNGOやPOと対話するように提案したが、総裁はこれを拒否した。

ところが、今回の話し合いは二

三日前の提案にもかかわらず快諾してもらえた。この差はなぜか?

千野総裁：よく聞いてくれた。私はADBの中でもそうだが、できるだけ人に会う、よく人の話を聞くことが大事だと思っている。チェンマイ総会の時は予定に入っていたNGOとの会合には出席したができればピープルズフォーラムの皆さんにも会いかけた。しかしADB総会は日程が非常につまっている。ADBには58ヶ国の加盟国があり、その代表団が大団長筆頭にやってくるその人たち全員と会わなければならない。ADBはアジア開発銀行を発行して資金を調達するが、その時にいろいろやってくる金融関係者なども会って情報交換をしなければならない。できるだけ安く資金を調達する必要があるので、三日間の総会期間中に、毎日朝6時半から7時くらいから人に会いはじめ、会議に出る時以外は、すべてそういう人たちと会わなければならないのももちろん、総会への参加登録をしたNGOとは例年必ず会談することになっているし、チェンマイでも5月5日に一時間かきずNGOと話し合った。実際、いろいろな意見をもらい役に立った。タイのNGOとPOから総会の6日か7日前にいただいたピープルズフォーラムの話については、みなさんに総会の日程を見せたいが、かなり前から日程が決っており、一週間や10日前となれば、たとえばどこかの国の大団長が会いたいと言ってもどうも日程には入らない。6日前

に言われても、総会では難しい。今回のような時はいい。時間があるので、いつでも会う。チェンマイ総会の際は、予定に入っていたNGOとの会合には出席した。ピープルズフォーラムの会合には私は行けなかったが、副総裁や局長を呼んで私の代わりに行ってもらった。その点は理解してほしい。

吾郷健二 ADBは、プロジェクトを成功させるためには住民参加が一番重要だと言っている。その住民たちがやってくるのだ。総裁自身が出て行って説明するのでなければ、説明責任だとか「住民参加」だとか言っても、まやかしくなってしまう。忙しいことは分かる。しかし、総裁が会わなければいけない人たちに対して、今、住民が来ているから会えないと言えたのではない。

千野総裁 総会は、年に一回各国の株主の代表に会うという場である。

吾郷健二 株主の方が大事なわけか。タイの住民はどうなるのか。わざわざ総裁がタイまで住民と会うためだけに来ることができるか。住民は簡単にマニラまで行けないではないか。

この会談において千野総裁は、「今後、時間の許す限り会う」ことを私たちに約束した。

(5) クロンドンセミナー

さて、チェンマイ総会においてサムット・プラカン汚水処理プロジェクトがクローズアップされたわけだが、そもそもこのプロジェクトとはなんなのか。またどのような問題があるのか。実はチェンマイ総会まで日本のNGO関係者においてもその問題は認識されていなかった。私たちFNAのメンバーは、NGOメコンウォッチの協力のもと、このプロジェクトの学習会を開催することになった。サムット・プラカン汚水処理プロジェクトとは、バンコクの南に位置するサムット・プラカン

県の水質環境の向上を目的として、タイ政府によって行われるプロジェクトである。この地域には、首都バンコクから近く、水運もよいことから5000社以上の工場がある。また、1980年代以降から住宅地としても開発されてきた。工場や家庭から排出された汚水は、処理されないまま河川や運河を流れ、地域の水質環境を悪化させていたのである。このため、この地域は、「公害防止地帯」に指定され、公害防止対策が検討された結果、サムット・プラカン汚水処理プロジェクトが計画されたのである。このプロジェクトは当初予算で136億バーツ（2001年12月現在、1バーツ=約2.9円）、2001年12月現在で229億5000バーツの資金が必要とされている。タイ政府はADBと日本政府に支援を求めた。その結果、プロジェクトの総予算の内約34%がADBによって、7%が国際協力銀行（Japan International Bank for International Cooperation, JBIC）によって融資が行われている。ともに、環境を保全するプロジェクトとしてタイ政府に融資がなされたのである。しかし、このプロジェクトに関していくつかの問題が指摘されることになった。ひとつは、このプロジェクトによって、環境が改善されるどころか、環境が破壊されるのではないかと、という住民の主張である。「このADBのプロジェクトのせいで私たちの環境と自給的な生活が破壊され、貧困が増加してしまうだろう」と地元住民のひとりも語っている。汽水域を利用して貝を養殖している漁民たちは、大量の淡水の排水により生態系が変化し、住民の生活に与える影響を懸念している。また、環境アセスメントが実施されていないことがこのプロジェクトの問題点のひとつである。タイの憲法や国家環境保全法では、環境に重大な影響を与える可能性のある計画には、事前に環境影響調査評価を行うことを義務付けているが、被害が懸念されているクロンダン村では実施されていない。さらに、1998年後

半の建設開始まで住民はこのプロジェクトについては何も知らされていなかったことが問題となった。

このような背景から住民はADB総会において激しい抗議行動を展開したのであった。住民の抗議は、タイ政府やADBに対してだけに向けられたわけではなかった。2000年12月にタイの地元から住民運動のリーダーであるダワンさんらはプロジェクトの問題を私たち日本人に知ってもらおうと来日した。その際、彼女が主張したことは、「あなたたち日本人のお金が融資されているプロジェクトにもっと関心をもって」というものであった。

(6) ホノルル総会

ADB総裁とダワンさんが直接会うことができたのは、チェンマイ総会から1年後の2001年5月のADB第34回ホノルル総会であった。ホノルルでは、NGOを中心にネットワーク組織「ADBウォッチ」がつけられ、大学や教会において、パネルディスカッションや講演会を企画し、ADBが融資するプロジェクトまたはグローバル化がもたらす問題について議論がなされた。厳しい表情のダワンさんが笑顔のADB総裁に直接意見書を手渡す場面は、翌日の新聞のトップ記事に掲載された。その後、このプロジェクトに対してADBは、独立調査チームが設置され、またインスペクションの対象にもなった。さらに、タイ政府の政権交代によって、プロジェクトは一時凍結される事態となった。このプロジェクトにわたしたち福岡のNGOメンバーが直接なんらかの影響を及ぼすことはできなかったかもしれない。また、わたしたちが経験したことは、ADBが融資するプロジェクトの一面を見たに過ぎないであろう。しかし、この事例から融資する側にいる日本人にできることはなにかについて考えるひとつの手掛かりが得られたのではないだろうか。

(次号へ、つづく…。)

気になるADB案件



第1回

スリランカ

南部ハイウェイ建設事業

—概要—

スリランカ・南部ハイウェイ建設事業は、スリランカの旧首都コロンボと南部のマタラを結ぶ128kmの道路を建設する事業です。

既存の高速道路とのリンクにより国内の交通網を充実させることが事業のねらい。

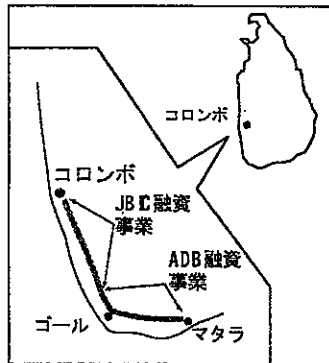
国際協力銀行 (JBIC) は、同事業のうち、67km区間の道路建設の際に必要な土木工事、資機材調達、コンサルティングサービスに、187億7000万円を政府開発援助 (ODA) として供与し、ADB (アジア開発銀行) は、事業の61km区間に対し、約90億円 (9,000万ドル) を供与することを決めました。

—問題点—

環境影響評価及び社会影響評価が不十分であること、ルート選定の適切性、さらに補償及び住民移転に関する様々な問題が現地住民やNGOより指摘されてきました。

これらの懸念の声を受け、国際協力銀行は2004年6月頃より事業に対する環境影響評価やルート選定に関する調査を行っています。

しかし、JBICはこの調査に関する情報を一切公開しないまま、調査を行っています。



概略地図

—現状—

ADBの政策違反を調査する遵守調査パネル(*)は現地住民の異議申し立て資格を認め (2004年12月17日)、調査に入りました。

調査を終えた遵守調査パネルは、現地住民が申し立てたADBによる政策違反の多くを認め、今後の政策遵守のための勧告をADBに対して提言しました (2005年5月6日)。

ADBの理事会は、遵守調査パネルによる最終レポートの勧告を承認したことによって、自ら同事業による政策不遵守を認めたことになりました (2005年7月12日)。

今後は不遵守の状態を遵守の状態にするため、遵守調査パネルによる勧告を実行に移すこととなります。

ADB事務局は、8月31日までに、遵守調査パネルによる勧告の実施のための手順を、遵守調査パネル及び理事会に報告することになっています。

*遵守調査パネルとは？

被害を引き起こした、あるいはその可能性のあるADBの業務政策・手続き違反の疑いについて、第3者が調査を行い、ADBによる事業の政策遵守を確保することを目的とし、そのための勧告を行うメカニズム。

〈参考ウェブサイト〉

- ・事業については <http://www.foejapan.org/> (FoE Japan・日本語)
- ・遵守調査パネルについては <http://compliance.adb.org/> (英語)

次回へ向けての予習口！

チャシュマ右岸灌漑プロジェクトⅢ(CRB P)ーパキスタン

アジア開発銀行 (ADB) によって融資されているチャシュマ右岸灌漑プロジェクトⅢ (Chashma Right Bank Irrigation Project・CRBIP) は、チャシュマダムからインダス川沿いに274キロメートルの運河を掘る灌漑プロジェクト。ADBがプロジェクトは砂漠に水をもたらすと主張している一方で、



多くの市民のグループは、プロジェクトが土着の灌漑技術にとって代わり、多額の費用でナチュラルウォーターサイクルを擾乱してた上に、水は少ししか獲得されないと言う。

I～II段階までは、1992年にすでに完成。遵守調査パネルによる調査が行われ、いくつかの政策違反が指摘されているにもかかわらず、第3期プロジェクトは…

原田さん(くるんて〜ぶの会)の
家庭でも出来るアジアの味

FNAの監査でタイの教育里親支援活動をしているくるんて〜ぶの会の
 原田君子さんにグリーンカレーのレシピを伝授していただきました。
 (くるんて〜ぶの会HP:<http://members.jcom.home.ne.jp/krungtep/>)

<グリーンカレー> 4人-5人分

*あくまでも基本なのでそれぞれの感覚で作ってください。

- | | | |
|-----|-------------|------------|
| 材料 | 鶏肉 | 200g |
| | たけのこ | 2分の1本 |
| | ピーマン | 1個 |
| | 赤ピーマン | 1個 |
| | ナス | 1本 |
| | ココナツミルク | 200CC |
| | | (粉でも缶でもOK) |
| 調味料 | グリーンカレーペースト | 25g |
| | 砂糖 | 大匙1 |
| | 塩 | 少々 |
| | うまみ調味料 | 少々 |
| | サラダ油 | 適量 |



▲ FNAの伝統の味

<作り方>

- 1、 たけのこは短冊切り、ピーマンは細切り 鶏肉は一口大に切る。なすは乱切りで準備をしておく。 野菜の切り方は好みでかまいません。
- 2、 鍋に油をひきすぐにグリーンカレーペーストをいれて、焦がさないように溶くようにいためる。香りと辛さが出ます。火は弱火がいいでしょうね。
- 3、 カレーペーストがなじんだらココナツミルクを入れる。粉の場合い温めた牛乳で溶かすとうまみが出ますよ。
- 4、 3に鶏肉を入れて火が通ったら、うまみ調味料、砂糖、塩で味を整える。水分が足りないときは、味を見ながらお湯または牛乳などで調節して下さい。
- 5、 4に野菜をいれる。(赤ピーマンは飾りに少し残しておく)
- 6、 5に火が通うれば出来上がり。
盛り付けて最後に残しておいた赤ピーマンを飾って完成!!

*出来ればタイ米で、ないときには硬めにお米を炊いてください。

*火加減は沸騰させないように注意しながら調節してください。

*辛いのが苦手な人は両面を焼いた目玉焼き(半熟)をのせて

一緒に食べるとまるやかに食べられますよ。

注目!?

ウェブ"サイト"紹介(第巻回)

ニュースレター担当者が独断でチョイスした注目のサイトを紹介します。

★ネットマガジン存在感

福岡在住のライターさんたちによる存在感探し・・・。(日記)

URL:<http://www3.coara.or.jp/~bungaku/>

★i m c - Independent Media Center -

独立系メディアサイト。世界の市民運動の動きはここでチェック!

URL:<http://www.indymedia.org/>

GO! GO! 映画館

ただの映画評です。



「style wars」 (監督：トニー・シルヴァー)

日本で「グラフィティ」と言えば、景観を汚す「落書き」に過ぎない。しかし、巷にあふれる宣伝広告や自動販売機の類は景観を壊すと言われることがあまりない。

そもそも、グラフィティとはどのようにして誕生したのだろうか？「style wars」は70年代から80年代初頭にかけて、ニューヨークの地下鉄にグラフィティ・アートを競って描いたライターたちを追いかけたドキュメンタリー。MTA（都市交通局）との

対立や当時のブレイクダンスシーンやヒップホップシーンをかいま見る事が出来る。何故、彼らは描き続けたのか？(DVDで発売中！ライターの今を追った特典付)

最近、公開された「ボム・ザ・システム」もグラフィティアートに焦点を当てた作品。カルチュラルスタディーズに興味ある方はこちらもどうぞ。(＊グラフィティを描くことを「ボム(bomb)」と言う)

これから公開の注目作品は？

「ライフ イズ ミラクル」 (監督：エミール・クストリツァ)

ボスニア紛争を描いた「アンダーグラウンド」(92年)でカンヌ映画祭パルムドールを受賞したクストリツァの最新作。祖国旧ユーゴスラビアを背景に、せつなくもあたたかいラブストーリー。→シネテリエ天神にて、10月公開(予定)

活字中毒進行中・・・

ただの書評です。



戦争とジェンダー

著・若桑みどり(大月書店) ¥1300+税
—平和は女性によって創られる？

戦後60年を迎えた中、多くの論調で目立つのは国家の為、家族の為に死んでいった若者(男)を称えるもの。しかし、多くの若者を戦争にかきたてたものは、国家権力によって構築された「男らしさ」である。本書は家父長制社会が戦争を引き起こしてきた実態を暴いてみせる。

憲法9条と共に24条(男女の平等)すら改正しようとする動きがある現在、戦後というより戦前の気配を感じる。

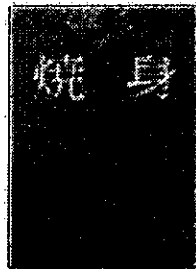


焼死

著・宮内勝典(集英社) ¥2000+税
—信じるに足りるものは何か？

9・11後、学生との語らいの中で、信じるに足りるものとは？を考える過程で、思い浮かんだのが、ベトナム戦争時に米軍に抗議して焼身したベトナム僧の姿。

ベトナム僧×師は何を想いそのような行為に行き着いたのか？その足跡を追ってベトナムへ。明快な回答を見出せぬままにこの旅は終わるが、結局は著者の好きなブッタの言葉である「犀の角のようにただひとり歩め」に行き着いたのかもしれない。



イベント情報 FNAがお勧めするイベントの紹介です。

2005年度NGOカレッジ

主催 NGO福岡ネットワーク

- * 第3回 (11月19日土曜日午後3時 5時)
「私たちは水の惑星に住んでいる
世界が抱える水問題」

講師：野田岳仁さん

((特活) Waterscape代表)

場所：福岡YWCA会館3Fホール

- * 第4回 11月23日水曜日・祝日午後3時 5時
「私と世界がかかわる方法
アジアの人々の現場から」

講師：大橋正明さん

(恵泉女学園大学教授、シャプラニール代表)

詳細はNGO福岡ネットワークウェブサイトをご覧下さい。→ <http://funn.nngo.jp/>

沖縄に基地はいらない!

まよなかしんやトーク&ライブ

主催：まよなかしんやトーク&ライブ実行委員会

日時：2005年12月4日(日) 14:00-16:00

場所：カテドラル大名町カトリック教会

(福岡市中央区大名2-7-7 西鉄グランドホテル向かい側)

出演：まよなかしんやさん(フォークシンガー)

入場料：大人 1000円(大学生以上)

連絡先：沖縄とむすぶ市民行動・福岡

TEL 090-1364-2261(木下)

FNAはあすばるフェスタに
参加します!! (ブース出店)

日時：2005年11月26日・27日

場所：クローバープラザ

ボランティアスタッフ募集中!

FNAの運営に 関わってみませんか?

FNAでは運営委員会に参加するメンバーを募集しています。

運営委員会に参加して、NGOの活動に直接関わってみませんか?

詳しくは、下記の連絡先までお気軽にお問合せください。

- ADB(アジア開発銀行)について誰にもわかる小冊子を作成しています。私たちと共にADBについて学びながら小冊子の完成を目指しませんか??
- 月1回の小冊子委員会を開いています。
- 皆さまのご参加をお待ちしています。
- 詳しくは、下記の連絡先にお問合せ下さい。



Q：FNAってどんなNGO?

A：FNA(ADB福岡NGOフォーラム)は、ADB(アジア開発銀行)によって行われる開発をモニタリングして、政策提言を行うNGOです。

お申込み、お問合せ、ご連絡は下記までお願いします。

〒810-0041 福岡市中央区大名2-6-46 福岡市立青年センター5階

福岡市NPO・ボランティア交流センター(愛称・あすみん) 気付 連絡BOXNo.2 4FNA行

郵便物には必ず「連絡ボックスNo.24」を明記して下さい。

電話・ファックス：092-920-1873

(電話は留守番電話になっています。ご用件を録音して下さい。)

E-mail: fna@minos.ocn.ne.jp

新URL: <http://www.geocities.jp/fnafukuoka/> (<http://nngo.jp/>)

会員募集中!

年会費(1口)・正会員5,000円・学生会員3,000円・購読会員2,000円

入会を希望される方は、氏名・住所・連絡先(電話番号、ファックス、E-mailなど)を事務局までご連絡ください。



この度、編集者が変わってニュースレターの雰囲気少し変わりました。発行が随分遅れてしまって、申し訳ありません。感想、または要望などがありましたら、FNAまでお気軽にお寄せください。